

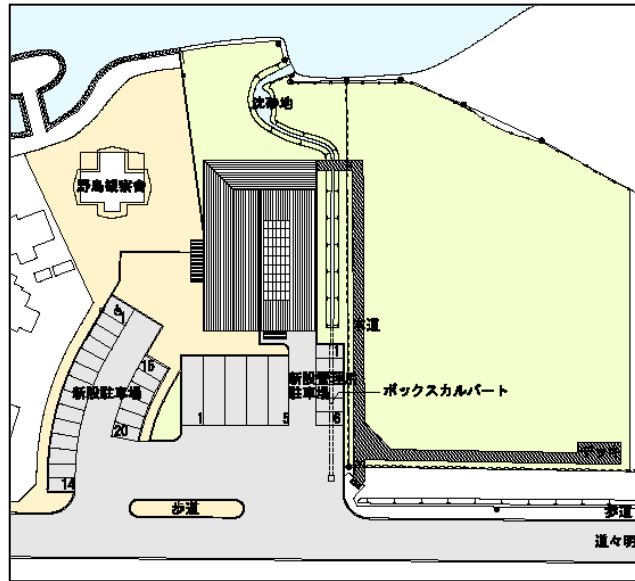
# 木道のルートを検討について

- ✓ 前は、建物デッキからそのままL字型に配置した木道にアクセスできる案を提示。
- ✓ しかし、軟弱地盤での設置であり、想定以上に建物等の設置コストがかかるため、前回想定した規模での木道の延長を確保することは難しい情勢。

＜木道ルートの今後の進め方＞

- 2/28説明会で地元の要望聴取。
- ↓
- 設計の中で整備可能な総延長を決定。  
(予算の制約)
- ↓
- 6月のルート候補地での詳細植生調査。
- ↓
- 植生調査結果を踏まえて最終案決定。  
(優先順位をつけて予算に応じて整備)

前回説明会の提示案



## 木道の整備イメージ

計画地における木道設置部は湿地地帯で軟弱地盤のため「棧橋形状」としたい。

また、できるだけ展望室からの眺望の妨げにならないように手すりは設けず、車いすの落下防止のため、次の写真のようなイメージの木道にしたい。



釧路湿原国立公園 温根内園地



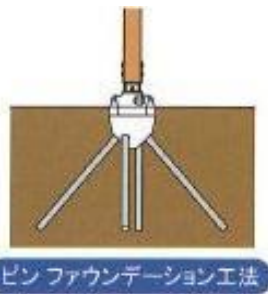
大雪山国立公園 勇駒別園地

# 木道の基礎工法

計画地における木道設置部は湿地地帯で軟弱地盤であり、適切な基礎工法を選択することが大切。比較検討の上で、次のとおり工法を検討。



- 【支持力】 . . . . . △
  - ・今回の施工地が湿地であるため、将来的に不等沈下が発生する可能性が高い。
- 【施工性】 . . . . . △
  - ・掘削、埋戻の土量が多く、変更の度合いが大きい。
  - ・設置する基礎ブロックが重たく、大型重機が必要となる。
- 【価格】 . . . . . ○
- 【維持管理】 . . . . . △
  - ・再整備にあたって、材料の再使用が困難となるため、コストがかかる。



- 【支持力】 . . . . . ○
  - 将来的に不等沈下が発生する可能性は低い。
- 【施工性】 . . . . . ○
  - 掘削がほとんどなく、埋戻は不要。また、小型重機で対応が可能。基礎の設置作業については電動工具でピンを打ち込むのみで簡素的。
- 【価格】 . . . . . △ (在来工法の約1.5倍)
- 【維持管理】 . . . . . ○
  - ・基礎の安定化が図られるので、再整備にあたってのコストを削減することができる。

検討の結果、十分な支持力を確保でき、道内でも実績のあるピンファウンデーション工法を採用する。

## 木道ルートの優先順位

### A 湖畔側重視とする場合

- ・室内からの展望の妨げになるため△
- ・テラス形状とするため、延長は短い△
- ・建物から直接アプローチできるため、利便性は○

### B 道道側重視とする場合

- ・既存植生への影響は○
- ・アヤメ越しに斜里岳を望む景観を採勝できる ○
- ・駐車場からのアプローチとなるため、利便性は△

